

学園もの

～a school & friend's story～

夜のピクニック



恩田 陸／著
新潮文庫(2006年)
本体価格629円＋税

夜を徹して80キロを歩く、北高の一大イベント歩行祭。貴子は、自分の秘密の思いを賭けて参加する。ただ、ただ、歩く、その先にあるものとは…。主人公たちと一体感が味わえる、爽やかな小説です。

※2004年版も全館所蔵。



エマ・ジーン・ラザルス、木から落ちる



ローレン・ターシス／作
部谷真奈実／訳
主婦の友社(2008年)
本体価格1600円＋税

学校での複雑怪奇な喧騒から一歩ひいていたエマは、救いを求められ、いよいよ手を差し伸べる時が来たと感じた。そして、最後に大きく成長するエマや友人たち。変わっているとされることは“ほめ言葉”、知恵を働かせることで物の見方が変わるなど、母親のさりげない言葉が心強い。



ぼくは勉強ができない



「時田秀美です。最初に言っておくけど、ぼくは勉強が出来ない。」彼は17才。サッカー好きで女性によくもてる、カッコいい高校生。彼の小気味いい言動。きっと皆さんも、時田秀美ファンになること間違いなし！です。

※1993年版は、わかぎり・武蔵野台のみ所蔵。



長嶋 有／著
光文社(二〇〇八年)
本体価格一五〇〇円＋税

図書室のベニヤ裏には部室が存在する。そこに図書部はある。部室に集う図書部員たちの様子が望美の目によって語られるが大抵はとりとめなく、どうでもよいことばかり…。コピー機にふーつをする、机の端をむしらないう等々…。中学生生活って、ぬるま湯みたいに感じるのは何故でしょうね。曖昧な中学生たちに読んでももらいたい一冊。

ぼくは落ち着きがない



長嶋 有

青い鳥



重松 清／著
新潮社(二〇〇七年)
本体価格一六〇〇円＋税

村内先生は中学の臨時講師です。言葉がつかえて、うまくでてこない。だから大切なことしか言いません。ひとりぼっちの子のところ、現れ、寄り添い、君はもうひとりではないから大丈夫だと言う。授業よりも大切なこと…。八編の短編はどれも孤独な心に寄り添う村内先生の愛であふれています。



ラッキー・トリンプルのサバイバルな毎日

スーザン・パトロン／著 片岡しのぶ／訳
あすなろ書房(2008年) 本体価格1400円＋税

表紙絵の赤いワンピースを着た少女に注目！骨壺から大切な母の遺灰を、砂漠の一部となるよう空に向かってまいている。少女の名はラッキー。まだ10歳。自分の道を自分の力で切り開いてゆく、サバイバルな10歳だ。



～a school & friend's story～

学園もの